

# みどりの活動紹介～楽しい公園施設にお出かけください

駒場野公園自然観察舎と中目黒公園花とみどりの学習館から春の公園を紹介するコラムが届きました！

## 「公園の大切な仲間」－駒場野公園－

駒場野公園には、明治11年に開校した駒場農学校の名残として、“ケルネル田んぼ”が現存します。毎年初春になると田んぼの水たまりにヒキガエルが産卵し、田植え前の5月頃までオタマジャクシを観察することができます。

しかしここ数年、駒場野公園のオタマジャクシは減少の一途をたどっています。このままではこの公園のヒキガエルは絶滅する可能性があります。自然観察舎ではヒキガエルの保全活動を行っており、50年後100年後もヒキガエルが住める環境を維持したいと思っています。(昨年ヒキガエルの生息調査“緊急ガマ調査”を行いました。詳しくは自然通信員だより60号・61号で)

(駒場野公園自然観察舎 問電話 03-3485-1754)



## 「春のお花見」－中目黒公園－

モモは古くから中国で親しまれてきた植物で、日本では弥生時代より栽培されてきたと言われています。「古事記」にも登場することから、古くから馴染みがあったことをうかがい知ることができます。ハナモモは園芸品種で、花を觀賞するために改良されました。日本では江戸時代から盛んになったようです。

中目黒公園では桃色、白、赤白混合など様々な花の色のハナモモを楽しむことができます。同じ時期から咲き始めるサクラも魅力的ですがハナモモでお花見もいかがでしょうか。

(中目黒公園花とみどりの学習館 問電話 03-5721-0871)



## ＼はじめまして！めぐろ／



はじめまして！

2018年1月23日 目黒川船入場のオカヨシガモ(オス)

寒かった冬、目黒川の船入場には例年よりも多くのカモたちが冬越しをしていました。中には、目黒区で初めて見つかったオカヨシガモの姿も。このカモは、冬にみられるほかの種類のカモと同様、夏にシベリアなどの北国で子育てを行い、秋冬に暖かい地方に渡ってきますが、数は少ない種類です。

目黒川船入場(中目黒 1-11)は、アシの生える島や浅瀬などがあり、東京湾からハゼやアユなどの魚たちがさかのぼってきます。カモ類やサギ類、カワセミやセキレイ類など、一年を通して様々な野鳥たちも多く、目黒区では貴重な生物多様性ゆたかな水辺です。

お花見がてら目黒川を訪ねて、ちょっと「川の中」をのぞき込んでください。

「はじめまして！」という声がかかるカモしれませんよ！

## 目黒区いきもの住民台帳 「土をめぐる生物」を作成しました

『目黒区いきもの住民台帳』は自然通信員や、区などの行った専門調査の結果を、目黒区に生息・生育する生物の種名リストとして集計したもので、2009年におよそ3000種類の動植物や菌類を掲載した暫定版を公開しています。今回は、すべての生物の生存基盤である『土』をめぐる生物として、キノコ(駒場で23年間の観察記録)や土壌生物について紹介するものです。(A4版40ページ)

4月13日(金)から目黒区総合庁舎1階区政情報コーナーにて1冊300円で販売します。また、『定点観測員』にご登録いただいている方の中でご希望の方にはお配りします。『住民台帳希望』とお書きのうえいきもの情報と一緒に、下記のあて先までお送りください。(冊数に限りがありますことをご了承ください)

区立図書館や目黒区ホームページでも内容をご覧いただけます。



(表紙と内容の見本)

郵便・FAX・メールのあて先

〒153-8573 《住所不要》 都市整備部みどりと公園課みどりの係 FAX 03-3792-2112 E\_mail sizen@city.meguro.tokyo.jp

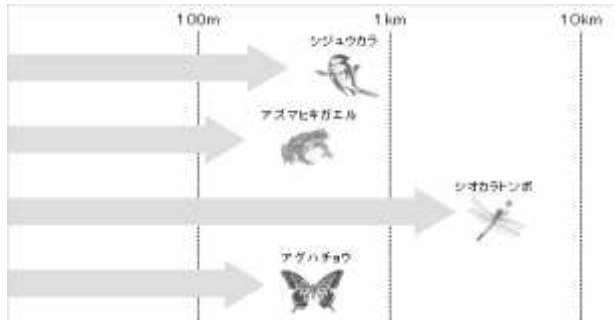
# 歩もう 野の鳥の歌が聞えるまち 計画紹介その⑧

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため 2014 年 3 月から推進している『ささえあう<sup>いのち</sup>生命の輪<sup>わ</sup> 野鳥のすめるまちづくり計画(目黒区生物多様性地域戦略)』のポイントを紹介いたします。

## ●「いきものの道」の取り組み

都市の中にいきものたちのすめる場所を創出していくためには、地域の核となる緑地の保全を図るとともに、散在する緑地を緑道や街路樹などでつなぎ、いきものがすみ、移動できる緑地を効果的に配置することが重要です。このような緑地のネットワークを「エコロジカルネットワーク」といいます。目黒区生物多様性地域戦略では、「いきものの道」をエコロジカルネットワークの構成要素の1つとして設定しています。

「いきものの道」とは、街にある樹林や「いきものの庭」をつなぎ、さまざまないきものの移動空間となる線上の緑地で、河川、崖線(がいせん)の樹林、緑道、街路樹や道路植栽帯、生け垣、屋上緑化などです。「いきものの道」を設定し、整備、活用することで、樹木や草本等が生育できる舗装されていない地表面、または水面等を連続させることにより、飛翔性や歩行性、遊泳性のいきものが移動できる経路を確保します。



図：都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動距離  
シジュウカラ、アズマヒキガエル(繁殖期)、シオカラトンボは「移動分散の直線距離」の平均値、アゲハチョウは最大値  
徳江義宏・大澤啓志・今村史子(2011(平成23)年)都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察,J. Jpn. Soc. Reveget. Tec. 37(1), 203-206より作成



図：いきものの移動距離から見た西部地区の公園緑地の配置検討の試み(区の鳥シジュウカラの例)  
シジュウカラの移動距離は約 500mと推定されており、現状の公園等を中心として半径 250m の円を描いています。円が重なっている箇所はシジュウカラの公園間の移動の可能性が高いエリアと想定することができます

シジュウカラの平均移動分散距離

## めぐろいきもの气象台 2018年1月~3月の記録

いきもの	観察日	観測地・観察のようす
ウグイス	1月14日	自宅庭にて。メジロと一緒にみかんを食べていました(中町2丁目自然通信員)
ツミ	1月23日	昼間、雪が積もっている庭の柿の木に止まっていた(上目黒5丁目自然通信員)
カモ類	2月14日	東大駒場キャンパスの池にて。40羽くらい(駒場4丁目自然通信員)
ゴマダラチョウ	2月18日	中目黒公園のヤード脇のエノキの大木。根元の落ち葉の中で幼虫1頭が越冬(自然通信員)
ヒキガエル	3月1日	春のお客さん。庭で鳴いていました。池の中で2匹が重なっていました(自然通信員)

★いきもの調査は、無理をして探しに出かけなくても、日ごろの生活の中で出会ったものをお知らせいただいております

## 現在調査中のいきものたち

ツバメ・テントウムシの初見日

サクラの開花日

タヌキ

蝶 タンポポ

…など

お知らせいただく項目

- いつ
- どこで
- なにを見た
- ようす・メッセージ

- いつも観察情報をありがとうございます。いただいた情報は、貴重な記録としてパソコンに集約しております。紙面の都合上全部をご紹介できないことをお許しください。
- 調べるいきものたちのパンフレットをご希望の方は、係までお申し込みください。
- いただいた写真等は、通信員だよりのほか区発行の印刷物に使用することがありますのでご了承ください。
- 通信員をおやめになりたいときや、転居のとき、お名前の誤りなどはお電話等でご一報ください。
- 観察情報や写真は郵便・FAX・Eメール ([sizen@city.meguro.tokyo.jp](mailto:sizen@city.meguro.tokyo.jp)) でみどりと公園課までお送りください。お写真をいただくと、種類を見分けるのに役立ちます。
- 通信員だよりはホームページからダウンロードできます。発行時にはメールでお知らせすることもできます。通信員だよりの郵送が不要の方は、上記のメールでご連絡ください。